



The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 17 | Issue 4 | June 2014

➡ In this issue...

- ▶ Mr Rothkopfからお別れのご挨拶...p. 3
- ▶ KISTのミッションを達成する...p. 4
- ▶ Grade 5 PYP Exhibition...p. 5
- ▶ スプリングビーへの道程...p. 6
- ▶ Math Field Day...p. 7
- ▶ MYPパーソナルプロジェクト...p. 8
- ▶ 登下校について...p. 10
- ▶ 未来につながる教育...p. 11
- ▶ Grade 4 リサーチスキル...p. 13
- ▶ さくらメダルブックトレーラー...p. 15
- ▶ スポーツ&運動競技 ニュース...p. 16
- ▶ Family Day 2014...p. 22

「お互いを癒すためにできる最良のことは、互いの物語に耳を傾けることだ。」

—Rebecca Falls

学校長より

活力あふれる若葉の季節を迎え、スクールコミュニティの皆様にはお元気にお過ごしのことと思います。数学へのKey Stage、IGCSEの導入など当校の新しい取り組みにお寄せ頂いた皆様の信頼に心から感謝申し上げます。それが着実に子供たちの成長に成果をもたらしていることはすでに前号でご報告させて頂いた通りです。

今特に実感していることは、学びの道具である数学と英語(当校の指導言語)の重要性であり、数学と英語において低学年の時から各学年レベルで求められる知識とスキルを着実に身に付けていくこと、先延ばししないことの大切さです。これは昨年のファミリーデーにもお話しさせて頂きましたが、それを肯定するデータが、イギリス政府において発表されていて、それには以下のような興味深い情報が含まれています。

言語と数学のレベルが、他の教科の全般的なレベルに大きく影響を与える

エレメンタリースクールの算数で良い成績を収めている殆どの生徒が、セカンダリースクールにおいて、殆どの教科で良い成績を収めている本校における教育の出口となるDPは真剣に取り組むことで実社会で真に求められている論理的思考力、分析力、コミュニケーション能力など様々な能力が磨かれます。そしてDPでよい成績を収めることは世界の一流大学へのパスポートにもなります。しかし、それだけにとてもチャレンジングなものであり、時間をかけて着実に準備していくことが成功への一番の近道です。そして上記のデータが示すように数学力と英語力の充実がその鍵となります。数学におけるKey Stageの導入で、保護者の皆様にもお子さんの進捗度が明確に見えるようになってきていると思います。今回6月から英語にもKey Stageテストを導入し、お子さんの進捗度をその基準に照らして測り、DPでの成功への道筋としたと思います。なお、6月のKey Stageテストはreadingのみとなりますが、次回からはwritingも検討しています。どうぞ、引き続き当校の方針に沿って、お子さんのサポートをよろしくお願い致します。

いよいよ8月にKISTの姉妹校としてKISTから約2キロメートル、車で7分の距離の日本橋浜町に**K. International Preschool**がオープンします。2歳児から5歳児を対象にKISTの求める英語力、態度を身につけることをその目的としています。放課後にはKISTのGrade5までの生徒も英語でピアノ、ダンス、などを習うことも出来ます。詳細は近々お伝えしますので、暫時お待ち下さい。

次のページに続く

DATES TO REMEMBER



June 2014

- 6 (G1-G5) Elementary concert (*Afternoon)
- 6 (G6-G12) Secondary concert (*Evening)
- 10 (G5) Promotion ceremony (*Evening)
- 10 Peer student-led conferences
- 11 (S) Secondary awards assembly
- 11 (G10) Promotion ceremony
- 11 (W) Last day of school for students (Half day for students)
- 12-13 Office open
- 16-27 Summer day camp
- 18 (W) Semester 2 reports issued by post
- 30-Jul 25 Office closed

July 2014

- 28-Aug 8 Summer academic program

August 2014

- 14 (K1/K2/K3) Parent welcome night
- 18 (W) First day of school for all students
- 27 (G1-G5) Parent welcome night
- 29 (G6-G12) Parent welcome night
- 29 (G12) College information night



前ページの続き

3年間に渡りセカンダリー校長を勤めて参りましたMr Stephen Rothkopfが今学年度を持って学校を去られます。Mr Rothkopfは東日本大震災後の一番困難な時期に校長に就任され、終始誠実な態度で情熱を持ってKIST運営の一翼を担って来られました。ここに改めて、氏に感謝の意を捧げますと共に、心から今後のご活躍とご幸福をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。なお、氏の後任には現在Secondary SchoolのVice Principalを勤めるMark Cowe氏が就任致します。

今年も多くの卒業生が学校を旅立ちます。今年で学校を去る生徒や教員の皆さんとのお別れの時が近づいています。去っていく人、引き続きKISTで活躍する人、全てのKISTコミュニティの皆様の成功をお祈り申し上げます。

Yoshishige Komaki
School Director/Head of School



エレメンタリースクールニュース

夏休み中の学習

2013-2014はエレメンタリースクールにとって楽しく実り多いものでした。暖かくなり、学年度の終わりが近づくにつれ、私たちの多くが、もうすぐ始まる夏休みのことを考え始めているのではないのでしょうか。

夏休み中、学校に来ることはない生徒達ですが、それでも学習を続ける機会は多くあります。夏休みは生徒達にとって、学んだことを実生活で活かす素晴らしい機会です。

旅行中でも、そうでなくても、夏休み中に日記をつけることは生徒達にとって、継続的に書くことを続けるまたとない機会です。休み中の日記はライティングスキルの強化だけでなく、他の教科内容との統合も可能にします。たとえば、生徒達は行った場所の地図を描いたり、自分で調べたことを書き込むことができます。写真、絵やその他の作品を追加し、それが、さらに多くの記述・説明文を書くことにつながるでしょう。友達や親戚にはがきを書くことも生徒が自身の考えを正確に伝える練習となる意義深い文章活動です。

もし、お子さんがお小遣いをもらっているのなら、お小遣い帳をつけるのも今年の夏に身につけられる重要なスキルです。買い物のお小遣い金額と実際の費用の計算を行うことはこれまで学んだ算数スキルの復習になります。旅行のときはお子さんに目的地までの時間と距離の予測をさせてください。これは、彼らが距離、早さ、時間との関係を理解する助けとなります。生徒達はコンピュータやマッピングのスキルを使い、お気に入りの場所へのルート、時間、高速や電車の料金、距離を記録することもできます。

雨降りでも、東京には楽しく、教育的な場所がたくさんあります。博物館、水族館、科学館やショールームなどでは何時間もの間、楽しい学びの時間を過ごす事ができます。家での図工や美術活動は創造性と問題解決スキルを育みます。また、お子さんがこれまでの学習内容の復習を行い、さらに多くのことを発見できる興味深いオンラインサイトがたくさんあります。下記リストをご覧ください。



そして最後に、大切なことを言い残していましたが、読書です！お子さんが毎日読書をするのを、奨励してください。子供たちが様々な、年齢にふさわしい読み物：本、雑誌、ウェブサイト、その他の資料に触れるよう計らい、読書の喜びを知ることを促進すべきです。一緒に読書をし、質問をし、物語やテーマについて話し合うことは、やる気を与え、考えることを触発します。

皆さんが楽しく、実り多い、心躍る夏をすごされますよう！

Kevin Yoshihara
Elementary School Principal

Recommended websites:
<http://www.bbc.co.uk/cbeebies/>
<http://www.bbc.co.uk/bitesize/>
<http://www.coolmath-games.com/>
<http://kids.nationalgeographic.com/>
<http://pbskids.org/cyberchase/math-games/>



Mr. Rothkopfからお別れのご挨拶

KISTの一員となってから4年になります。そのうちの3年間は光栄なことにセカンダリースクール校長としてのものでした。KIST在職中、多くの喜び、達成、そしてもちろん困難もありましたが、それらにより、私たちはより親密になったと思います。私はKISTでの日々を心から楽しみました。これまで支えてくださった生徒、保護者、教師、オフィススタッフと経営チームの皆さんに感謝申し上げます。これまでに着手してきた様々な手続きには、これからも、その時々での上記全ての皆さんの継続した協力が不可欠です。

全てのコミュニティメンバーのご支援と、私に生徒達への監督責任やケアを任せてくださったことに感謝申し上げます。KISTコミュニティの一員であったことは非常に名誉なことであったと思っております。これまでの4年間で私はプロフェッショナルとして成長することができました。KISTでの日々の思い出と皆さんとの友情は私にとって生涯忘れられない宝となるでしょう。KISTの一員であったことや、日本で暮らした思い出は、私と妻が家族の近くにいるためにヨーロッパに戻っても、常に私たちと共にあるでしょう。

過去4年間 Mr. Cowe と近しく勤務してきており、残りの学年度を使い、新しいリーダーシップ体制へ移行していくことから、学校がこれからも順調に発展していく事を確信しています。学校の発展は、カリキュラムプランニングの強化・向上、セカンダリースクール生徒会に代表される生徒の学校への参加・発言の活性化を含みます。

保護者の皆さんや教師たちにお別れをするのが寂しいのはもちろんですが、一番辛いのは、生徒達に別れを告げることです。私は生徒達が成長し、自立して行くのを見ることを大きな喜びに感じていました。

生徒達が発揮する様々な才能と個性は、本当に感動的で、私を奮い立たせるものでした。生徒達が大学へ進学するために巣立っていく今こそ、私も教育者として、そして生涯学習者として成長するために新しい役職と教育経験に挑戦しなければなりません。

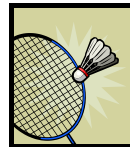
KISTコミュニティの皆さん、私を、生徒の人生に大きな、そして良い影響を与えている学習者のコミュニティの一員として迎え入れてくださったことに感謝申し上げます。

最後に、Mr and Mrs Komakiの、これまでの数え切れないご支援とご指導に心からの感謝を述べさせていただきます。

Stephen Rothkopf
Secondary School Principal



Spotlight on Clubs



セカンダリーバドミントンクラブ

ドライブ！フリック！スマッシュ！ これらは今季、バドミントンクラブで毎週打ち込まれていたショットです。今年のバドミントンクラブのメンバーは競技・練習試合をお互いの間で行うことを楽しみました。メンバーの幾人かは創造的な新しい試合形式を生み出し、活動をさらに楽しいものになりました。

バドミントンは楽しく、運動競技としても優れたスポーツです！バドミントンクラブにはG6-12までの全ての生徒が参加できます。来年の皆さんの参加を楽しみにしています。

Keith Erickson
Badminton Club



コミュニティ向け掲示板



この度グランドのバスケットコート付近（西館Multipurpose Room脇）に、コミュニティ向けの掲示板を設置しました。

各種イベントの案内や生活に役立つ情報など、コミュニティの皆さんに向けた情報を案内する掲示板です。学校にお越しの際はぜひチェックしてください。また、掲示を希望するポスターや広告がありましたら、学校にお持ちください。その際には先日 E-Communication No. 246 で配信しました掲示板規則をご確認ください。



KISTのミッションを達成する

また学年の終わりを迎える今こそ、私たちがどれだけ本校のミッションである「多様な背景をもった子どもたちにも質の高い国際教育を提供すること」を達成できているかについて振り返るのにふさわしいのではないのでしょうか。

Best-Schools.UK.org はこのほど、DPの総得点平均値を基にした英国のIBDP校のランキングを発表しました。DPを提供し、昨年最低15名以上の在籍者のあった学校から1位の平均点40.1から、37位の平均点29.3の学校までがランキングしています。このデータは下記から見るができます。

<http://www.best-schools.co.uk/uk-school-league-tables/ib-schools-large-cohort/>

KISTの昨年のDP結果を上記英国ランキングに換算すると、私たちがこれら英国DPのトップ校に並ぶことを皆様にお知らせできることをうれしく思います。

- KISTはディプロマ取得者のDP平均得点32で、ランキング30位に相当します。
- また、全生徒(ディプロマを取得しなかった生徒を含む)平均30.7点で、36位となります。

これらの結果はDPの成果ですが、このDP結果は学校全体のコミットメント及びあらゆるレベルでの強固な教育プログラムなくしては得られませんでした。最近の研究によると、教育プログラムの成功は、成果を期待する協力的な家庭に依存するということです。私たちは次の5年間で達成すべき、DPでの平均36点という目標のために最近導入した新たな取り組みと、来年導入する予定の取り組みである、追加の算数・数学、エレメンタリーでの英語のサポート、セカンダリースクールでのアカデミックライティングの授業に対するコミュニティの皆様の強いご支援・ご協力に感謝いたします。

上記により、私たちが質の高い教育プログラムを提供して

いることは証明できていますが、多様な背景を持つご家庭にこのような教育を提供するという点についても考えなければなりません。ひとつの方法は学費をできるだけ低く抑えるということです。

また、上記英国のランキングデータには各校の学費も含まれていました。KISTの学費はランキング校のなかで最も低い金額であったことをお知らせするのを誇らしく思います。(イギリスポンドに換算)

それぞれの背景や状況を考えると、英国の学校と本校の単純な比較は難しいかもしれませんが、東京の物価と、英国のそれは比較可能な範囲であると考えられます。しかしながら、国内の他の学校の学費と本校のそれを比較するため、数週間前に東京周辺のインターナショナルスクールとの学費比較表を準備したところ、こちらでも、私たちの学費は他の確立された学校と比べて著しく低いという結果が出ております。

KISTコミュニティのコミットメントにより、今年も品質の高い教育を手の届く範囲で提供するというミッション達成の証左を得られたと確信しています。

皆様も、これまで達成できた成果を誇りに思ってお下され、これからも学校が目標達成のために更なる進化を遂げることを期待して下さると信じております。

皆様のこれまでの変わらぬご支援に感謝しております。KISTの全てのご家族にとって記憶に残る、安全で、心休まる、素晴らしい夏休みとなりますようお祈り申し上げます

Jeffrey Jones
Director of Education



mission

K. International School Tokyo provides highly motivated children from diverse cultural and social backgrounds with a high quality education in a safe and nurturing environment to become competent and moral individuals who make meaningful contributions to our global community.

K インターナショナルスクール東京は、文化的社会的に多様な背景をもった意欲的な子どもたちに、安全で人をはぐくむ環境の中で、質の高い教育を提供し、国際社会に貢献する、人格的に秀でた有能な若者を育成する。

Grade 5 PYP Exhibition 2014

4月24・25日に5年生は過去数年間の学習の総括的評価として“Exhibition”と呼ばれる課題を通して自身の知識を発表する機会を得ました。これまでの総まとめとして、生徒達はこれまで培った調査や問題解決スキルを協同的な超教科的探求プロセスで十分に発揮する機会を与えられました。課題は小さなものではありません。生徒にとってだけでなく、経験豊富な教育者にとっても困難で挑戦的な課題が与えられます。

今年のExhibition チームは、このプログラムの「新参者」2名に率いられました。Mr Matthew Archibald と Mr Scott Grant はこのプロセスの最初から最後まで、伝染力のある前向きで活気に満ちた、新鮮な若々しさで生徒達を教えました。彼らの指導スタイルと、「正しく行おう」という共通の目的が生徒達にベストを尽くさせることにつながりました。このチームにはメンターとして5年生のELS コーディネーターMs Rachel Parkinsonと、多くのエレメンタリー教師たちが加わりました。これらのメンバーは生徒達が自身の知識を前向きで生産的な方法で活用できるよう手助けしました。

生徒達はこの探求の推進力となる central idea (中心となる考え)、

“Human made systems and organizations have positive and negative effects on our lives and the environment.”(人類の作り上げたシステムや組織は私たちの生活や環境に良い影響と悪い影響をあたえる)を十分に考えた上で作りあげました。この中心となる考えの下で、生徒達は様々なテーマを決めました；貧困と児童の労働、原子力、水質汚染、動物シェルター、安全の構築、密輸、交通管理、などです。グループや個人は各自のテーマについての直接情報を得るためにコミュニティの人々にインタビューを行いました。非常に緻密で、苦痛でさえあったリサーチを通して、生徒達は各テーマや問題について、十分な知識を習得しました。生徒達が内容についてより深く掘り下げていくにつれ、保護者の皆さんや友人たちを招く4月24日の発表に向けて興奮は最高潮に達しました。発表は非常に専門的に行われ、生徒達が自身のテーマについてしっかりと理解している証明となりました。発表はテクノロジーに過剰に頼らず、「対面式」で行われたため、情報には視覚と感情の両面から触れることが可能となりました。この方式により、子供たちの情報共有への思いと熱意をさらにはっきりしたものになりました。

長い年月を経て、Exhibitionにもたら

された変化の一つは、可能な範囲で、身近で地域的な問題に着目する

ということです。生徒達は実際に解決または維持すべきテーマを選びます。この課題の最後の要素は「行動」です。過去にはこの「行動」が地理的または政治的な要因により困難な場合があります。身近で地域的な問題を選ぶことにより、効果的で実際の行動をとることのできる可能性が増し、結果もより容易に観察できるようになります。このプロセスは実際に継続しているものなので、生徒達の探求の結果・成果や、長期的な効果について聞くことを楽しみにしています。

最後に、5年生たちに来年度のセカンダリースクールでの幸運を祈るとともに、来年2回目のExhibitionに取り組むことになるG5の先生方の幸運もお祈りさせていただきます。みんな、良くやりました！

Clay Bradley
PYP Coordinator



東京ジャパントイズ・スペリングビーへの道程

私のジャパントイズ・スペリングビーへの参加は今年で4年目になります。参加してきた年月を通して、言葉というものを好ましく思う気持ちがどんどん増して来ました。これまで多くの言葉を学び、より進化するための間違いも多く経験してきました。私がこれまでの道のりで学んできたことをここで皆さんと共有したいと思います。

The National Spelling Beeは1925年にアメリカ合衆国で始まりました。最初のNational USA Spelling Beeはアメリカ国内の9の州から参加した9名によって競われました。National Spelling Beeの参加者はクラス、学校、地域(州)での選考を勝ち抜いて集まった人たちでした。第89回National Spelling Beeは5月の終わりにアメリカ、そしてはるばる日本と中国から国を代表するために集まった281名の参加者によって競われます。競技は1925年の初回から多くの変更点を経て、日々人気と知名度を獲得しています。日本での最初のスペリングビーは2009年に行われ、今では沖縄、静岡、福岡や東京を含む他の地域から40校近くが参加する人気のある催しになっています。

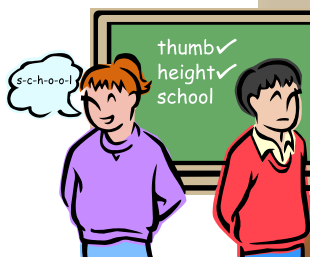
私はスペリングビー、そして言葉というものに興味と、色々な面での注目を抱いてきました。私が注目したのは、英語が世界の異なる地域で異なる話し方をされ、ラテン語、ギリシャ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語やイタリア語から新しい言葉を借りてきたということです。次に興味深く思ったのは、言葉の語源です。語源とは、その言葉が発生した元々の言語と、本来の意味です。英語の言葉は他の言語から派生した(借りてこられた)ことがあるため、語源は重要な役割を果たします。戦争、信仰、誤解によって英語の言葉は変わってきました。たとえば、フランスが英国を征服し

ていたとき、フランス語は英語に大きな影響を与え、英語は多くのフランス語から派生しました。また、私の興味を引いたものに基語があります。基語とは接頭辞と接尾辞を加えることによって新たな言葉を派生させるものです。英語を組み立てる元になるものであることから、基語は私の興味を引き付けます。スペリングビーでは言葉の意味や語源について尋ねることができます。

最初、私はスペリングビーとは、ただ言葉を暗記するものだと思っていました。しかし、もちろん良い記憶力は助けにはなるものの、それだけの競技ではないことを学びました。言葉の受け渡し;言葉の発表の仕方も同じくらい大切なのです。ほんの些細なミスでも競技からは失格してしまいます。たとえば、“accommodate”とスペルするのに、“acommodate”と書いてしまったら、ほんの些細なことなのに失格になってしまいます。事前の準備・練習が不可欠ですが、幸運という要素も必要です。どちらにせよ、「幸運の女神は準備のできた者のみにほほえみかける」のです。またスペリングビーは参加者同士が競うのではなく、自分と辞書との勝負であることを忘れてはいけません。

最後に、私はスペリングビーが動機、観衆の前でスペルする自信と、成功と失敗から学ぶ勇気を求める競技であることから、教育的に重要なものだと思います。私にとって、勝つことは重要でしたが、この数年連続で競技に参加させたのは、あくまでもやりとおすという気持ちと競争心だったと思います。このような気持ちはスペリングビーだけでなく、多くのことに役立つと思います。

Gautham (G7B)



Courtesy of the Japan Times

<http://www.japantimes.co.jp/news/2014/03/23/national/spelling-ace-bostrom-wins-2014-bee/#.U2jdq2SyE0>

Math Field Day

2014年4月23日、KISTから30名の“mathletes”(マスリート)達が横田ハイスクールで行われた恒例のKPASSP Math Field Dayに参加しました。G7からG12の参加者たちは午前に行われた個人の部で良い成績を収め、午後の学校混成チームで行われたMath Maniaではリーダーシップを発揮しました。

参加した生徒達の感想です。



Lae Eun (G8B)

Math Field Dayは良い経験でした。このイベントは全てアカデミックで、数学好きの為だけのものだと思いますが、そうではありませんでした。午前中に行われたテストはアカデミックなものでしたが、数学的な技術ではなく、考える力が求められるものでした。典型的な学校の数学テストというより、数学パズルのようでした。午後のMath Maniaはチームでのスピードクイズで、違う学校の生徒達とチームになって参加しました。ただ一緒に数学の問題を解くだけでなく、歌を歌うなど、いくつかの楽しいボーナス問題もありました。すばらしい経験でしたし、来年も参加するのを楽しみにしています。



Hana (G9B)

Math Field Dayはとても楽しかったです。他の学校や学年の頭のいい生徒にもたくさん会えました-私のような生徒が一度に300人近くも集まるなんて驚きでした！個人部門では自分自身の限界に挑戦し、自分の数学力を試すことができ、終了後に達成感と満足感を味わうことができました。午後のグループ競技もすばしかったです:皆ができるだけ早く数学の問題を解くことをとにかく楽しんでいました。毎週のミーティングへの参加や、contest paperの完成など、コミットメントが求められましたが、それだけの価値がありました。

コーチからは、全ての参加者の3ヶ月間の努力を称えらるとともに、この場を借りて、KISTを代表して入賞した下記生徒達を紹介させていただきます。

Lae Eun (G8B) - G7-G8部門 2位

Hana (G9B) - 優勝チームメンバー

Daiki (G12A) - G11-12部門 2位

Min (G12B) - G11-12部門 優勝



皆さん、よくがんばりました！

Christopher Tihor
Team Coach

Andre Ito
Team Coach



MYPパーソナル・プロジェクト

学びの発表会—パーソナル・プロジェクト

3月7日の夜、KISTの体育館では誇らしげな10年生により、6ヶ月間の学習の成果を保護者やコミュニティに発表する、恒例のパーソナル・プロジェクト発表会が開催されました。これまでの学びの成果を発表する場で、来場者もとても楽しんでいました。



金曜日の授業時間中に、生徒たちはプロジェクトを同級生、下級生、教員、スタッフに発表しました。パーソナル・プロジェクトはMYPの最終学年となる生徒たちがこれまでの学習成果と成長を祝う機会です。

生徒たちは各自が選択したテーマに6ヶ月取り組み、KISTコミュニティと共有できる素晴らしい意見や知識に到達しました！ プロジェクトは本格的なパワーポイントでの発表から、自作の本、情報ビデオからゲームにいたるまで、すべて生徒によって製作されました。さまざまなテーマは、自分の仲間である10年生の内面をあらわしていました。

発表の準備は、最高の発表をおこないたいと願う、非常に熱心で快活な生徒たちによって、前日の放課後から始まりました。次の日、生徒たちは終日、同級生や下級生への発表を行って過ごしました。



G10AのMotoiが自身のテーマ「π」(パイ)について仲間に説明中



G10BのRajが自身のテーマを下級生に発表

生徒達はこのプロセスが非常に困難なものであったと認めつつ、同時にとても楽しい経験であったと言っています。

“自分たちが興味を持ったテーマを選べるけれど、レポートはとてもストレスだったから、(結果は)50/50かな”

Megan (G10B)

10年生が研究とその成果を発表できただけでなく、ほかの生徒たちも上級生と学ぶことができ、素晴らしい時を過ごしました！

“テーマは面白いし、発表の方法も楽しい”

8年生の生徒

結果的に、パーソナル・プロジェクトは前向きなエネルギーを輝かせる経験です。

“生徒たちはとても(学習に対して)前向きだ。”

Leo (G10A)

この環境はみんなから、そしてみんなへの尊敬の念を促進させます。10年生の仲間になって比較的日の浅い自分がパーソナル・プロジェクトについてレポート出来たことをとてもうれしく思います。

Kei (G10A)



DPニュース

G12 IB DP 最終試験!

12年生は5月にIBDPの最終試験を終えました。この試験はDPでの2年間の学習の集大成で、IBから発行される成績の大半はこの非常に重要な評価課題(試験)の結果によるものです。生徒達はIBのガイドラインと手順に従い、学校が設置した試験会場にて試験を受けます。試験会場は必要な静かな環境を確保できるよう、校内もしくは校外で行われます(写真をご覧ください)。受験済の答えは教師や、評価のためにIBに雇用されている専門家に送られます。KISTにも評価のためにIBに任命されている教師が数名おりますが、KIST(自校)の生徒の試験評価は行いません。生徒が受験したIBDP試験の評価には2ヶ月ほどかかり、生徒は自身の試験結果を7月初旬に知ることができます。毎年"The Comet"の9月号で学校がこれらの試験結果の概要を皆様にご報告しております。



English oral examinations in the LMC



ほぼ5年に一回、IBは事前連絡なしに、学校がIBDP最終試験をどのように行っているかを視察に訪れます。KISTではこの視察が今年の5月9日に順調に行われた事をご報告できることを嬉しく思います。IBの代理人として視察を行っているNigel GardnerはKISTでの試験について、「とても良く整っており、完璧に運営されていた」と書いています。ディプロマコーディネータの試験運営に尽力くださった多くの教師・スタッフの協力を感謝

します。

G11のカリキュラムイベント2件: Oral Commentariesの完成と課題論文 (Extended Essay) 下書き

English Oral Commentaries:

5月中旬にG11のEnglish A受講生はOral Commentary(口頭論評)を終えました。この課題は2015年7月にIBより発行されるEnglish Aの成績の15%に当たります。学生はPart4で学習したSLテキスト2冊、もしくはHLテキスト3冊の中から初見の文章を渡されます。学生はその後20分の制限時間内に英語教師の前で発表する10分間の口頭論評の準備をします。この論評では渡された文章の文脈; 背



Off-site IB Diploma examinations

景、状況、場面と、元になったテキストおよび渡された文章の内容を述べるとともに、文章構成についても分析を行います。

これはとても難易度の高い課題で、生徒達に、これまで学習した情報をすべて用いた上で、すばやい決断をすることを求めます。

この課題の為に時間をかけ、アレンジをくださったMrs HallとMr Whiteの献身と、校内の環境を整えてくださったLMCスタッフの協力に大きな感謝を奉げます。

課題論文(Extended Essay-EE):

5月中旬にG11の生徒達はEEの第一草稿の提出も求められていました。この草稿は約1500~2000字で、生徒がリサーチの主題についてこれまで調べたことやEEの過程や構成について発表することを可能にします。スーパーバイザーを務める教師はこの草稿を読み、夏休み前に担当する生徒に主に口頭でのフィードバックを提供します。

G11の保護者の皆さんはMoodle上でEEについての情報を得ることでお子さんのサポートをしていただけます。DP Extended Essay Moodle Pageに保護者の皆さんがお子さんのサポートを行うのに必要な情報がすべて載っています。課題論文の第一草稿についてお子さんにお聞きになったり、書き上げられた草稿を読んでみてください!

下記情報は非常に重要なものです。

生徒達は夏休み中に課題論文に取り組む必要があります。夏休みは、最終的な資料収集やリサーチ、課題論文の草稿執筆に集中するのに最適です。課題論文の草稿の提出日は、夏休み明け第二週の終わり、8月29日(金曜日)です。の締め切りです。DP課題論文草稿についての詳細な説明はEE Moodle Pageからご覧いただけます。

Mark Cowe
Secondary School Vice Principal/DP Coordinator

登下校について

このところ、朝の登校時に駅へ行っているのですが、多くの生徒が制服を正しく着用し、登校時にマナーを守っていることをうれしく思っています。

しかしながら、何人かの生徒は駅構内で「ながら歩き」(電話、メール、ゲームをしながら歩く)をしています。「ながら歩き」は事故の可能性を高め、通行の邪魔になったり、通行人に怪我をさせたりという結果をもたらします。このため、「ながら歩き」は無作法だと考えられており、KISTでは生徒の「ながら歩き」を慎むよう求めています。

現在、校則の見直しが行われており、新しいものには生徒の行動・態度のついての学校の期待についても明記されます。それまでの間、学校の求める登下校時の生徒の行動について、保護者の皆様にご説明いたします。

- ⇒ 登下校時のゲーム機の使用は禁止
- ⇒ 登下校時は常に制服規定を遵守すること(シャツの裾は出さない・ズボンの中に入れる、スカートは適切な長さ、髪は結うこと)
- ⇒ 登下校中はマナーを守った行動をとること。これは以下の地域的な習慣を含むが、以下のみに限定されるものではない:
 - 歩きながらの飲食は慎む
 - バスや電車での飲食は慎む(水やお茶を飲むことは可)
 - 「ながら歩き」は慎む
 - バスや電車内での携帯の使用は慎む

駅への到着を保護者の方に知らせる必要のある生徒は通路の片側に寄り、立ち止まって通話すること。

保護者の方も上記に関して、生徒の模範となる行動を示してくださいよう、ご協力の程宜しくお願いいたします！

Jeffrey Jones
Director of Education



保健便り

熱中症に耐える身体を作りましょう



徐々に暑くなってきましたが、体調管理は万全ですか？6~7月頃になると、熱中症になる方が増えてきます。熱中症の事故は、梅雨明けなどの急に暑くなり体が暑さに慣れていない時に、多く発生する傾向にあります。また肥満傾向の方、体力が無い方、免疫力が低い方、疲労、下痢、発熱など体調が悪い方などが熱中症になりやすいといわれていますので、日々の体調管理に気をつけましょう。

“ 日々の体調管理に気をつけましょう ”

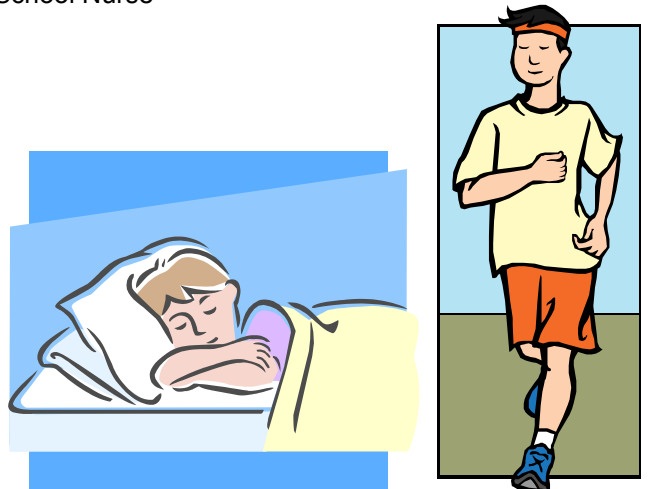
体調管理のポイントは、睡眠、運動、食事です。朝はカーテンを開けて光を浴び、朝食を摂り、日中は活動的に過ごし、夕方は軽い運動をし、入浴またはシャワーをし、夜は明かりを暗くしてリラクセスし、睡眠をとる規則正しい生活をする事がとても大切です。

先日、頭痛を訴えてきた生徒がナースルームにきましたが、その生徒は勉強が忙しくて昨夜眠れなかったと言い、1時間程ナースルームで休み、すっきりした顔で教室に戻りました。

“ 良質な睡眠は脳と心身の疲れを取り除き...” ”

良質な睡眠は脳と心身の疲れを取り除き、免疫力を高めてくれます。お子さんの睡眠時間は十分なのか、目覚めた時に、ぐっすり眠れたという満足感があるのか否か確認してみましょう。

Makiko Whittaker
School Nurse



未来につながる教育

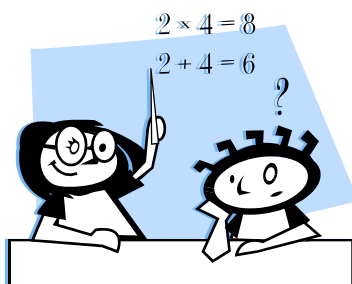
これまでの長きにわたり、「3R」といわれる、「R'eading読み、「R'iting書き、「R'ithmetic計算(算数)があらゆる子供の教育の原点であるべきだと論じられてきました。そもそも間違っ綴られた文字によって教育理念を表すこと自体あまり賢明とはいえないかもしれませんが、これら3つのスキルの価値とその教育上の重要性は現在、そしてこれからの世代にも、確実に受け継がれていくものでしょう。

しかし、この3Rに基づいた教育モデルはどの国や地域にとっても特に珍しいものではありません。教育プログラム(educational programming)の増加に伴い、かつて発展途上国と呼ばれた国々が、歴史的にも教育プログラムのリーダーと目されていた国々を追い抜くまでになっています。これら、アジア諸国を含むニューリーダー国は、OECDのPISA読解、理科(科学)、算数(数学)の学力テストで他国より良い結果を出しています。Friedman (2011)によると、競争力を日々増している国際社会において、アイオワ州にある生徒数1600の小さな教養大学であるGrinnel Collegeにさえ、毎年中国から200人以上の願書が届き、しかも、その半数がSATの数学で満点を取っている学生だそうです。現代社会の現実、3Rで「平均」もしくは「平均以上」の能力をもってしても、有名大学に入学するには十分ではないのです。もちろん3Rスキルは重要です-そのため、KISTでは生徒をサポートするための追加プログラムを導入しているのです-しかしそれだけではもはや不十分になっているのです。

将来(未来)の問題解決と、国際社会への確かな貢献のため、KISTは現代の生徒には、3Rだけでなく「3C」を持つように教育すべきだと信じています。これら3Cのスキルは、ハーバードのTony Wagner 著、*The Global Achievement Gap*によると、「C'ritical thinking論理的思考力、口頭・文章での「C'ommunicationコミュニケーション能力、そして「C'ollaboration協調力です。IBプログラムを通して、KISTの生徒達は3Rと共に3Cスキルも身に着けています。KISTの生徒達は実生活に即した様々なテーマへの探求学習を通して概念理解と分析力を発達させ、自身の理解を二言語で伝達し発表することを学び、教室内外で問題解決のために協調します。今年のG5 Exhibition、G10のPersonal Projects、G12のExtended Essaysの質の高さは、本校の生徒達の3C能力を反映しており、生徒達に学習の次のレベルに進む準備が十分整っていることをあらわしています。

Friedman T. & Mandelbaum P. (2011). *That used to be us: How America fell behind in the world and how we can come back*. Farrar, Straus and Giroux: New York.

Jeffrey Jones
Director of Education



Class of 2014



Congratulations to the Class of 2014!

KISTは、毎年勤勉な卒業生の一団が世界中の大学に飛び立っていくのを見送ることを誇らしく思っています。IBの経験を通して、卒業生たちには世界の一流大学で成果を出すだけでなく、全ての人にとってより良い世界を創造する能力が備わっていると確信しています。

2014年度、KIST卒業生の皆さん、おめでとうございます！ KISTコミュニティが皆さんの将来の成功を楽しみにし、挑戦を支える為にここにいることを心に留め、KISTでの思い出を大切に、「生涯学習者」として新たな学びの旅路を自信と誇りを持って進んでください。

皆さんの成功と幸せをお祈りいたします！

Jeffrey Jones
Director of Education

新入スタッフ紹介

前回の*The Comet*が発行されてから、新たにスタッフが仲間入りしました。スクールコミュニティーを代表して皆さんのご活躍を祈り、共に楽しい時間を過ごせることを願っています。



Christopher Carufel
ELS Instructor (G3)



Emi Hisamatsu
Science Laboratory Assistant



Leia Wakasa
Translator/Interpreter



Aikka Watanabe
Teacher's Aide (K3-G1)

図書室ニュース

Sakura Medal チャレンジ 当選者

応募した生徒達は一票につき一回くじを引きました。エレメンタリーから6人、セカンダリーから3人の、合わせて9人の当選者が賞品の図書カードを受け取りました。Sakura Medalは日本中のインターナショナルスクールに在籍する生徒によって選ばれます。皆さんの一票がお気に入りの作者・イラストレーターが受賞する助けとなります。当選者の皆さん、おめでとうございます。そしてこの読書プログラムに参加して下さった皆さん、ありがとうございました。

エレメンタリーの当選者:



(L>R) Diana (G1B), Lingfei (G1B), Leika (G2A), Hotomi (G3A), Kishore (G4A), Yoo Mee (G4A)

セカンダリーの当選者:



(L>R) Pranita (G10A), Keerti (G11B), Sarah S. (G8B)

国際レベルのSakuraアートコンテストへの出品

生徒達はSakura Medal artwork competitionへの作品応募の権利が与えられました。日本中のインターナショナルスクール在籍者の作品から選ばれた受賞作はSakura Medal受賞作の作者・イラストレーターの元に送られます。KISTの生徒達はいくつかの素晴らしい作品を応募しました。これらの応募作品は来学年度に図書室に展示されます。皆さんの努力に感謝します！

セカンダリーの生徒による応募作品です。



Cindy 10A

Ria 11B

Vidhika 11A

課題論文 (Extended Essay) のための夏休みの読書・リサーチサポート



生徒達は6月18日からエレメンタリー図書室とLMCから夏休みの読書のための英文学・小説を借りることができます。夏休み中の文学・小説の貸し出しのため、図書館は6月27日まで開いており、その後、7月28日から再開します。夏休みの間、全ての生徒は図書館から借りた本を適切に管理することを求められます。図書館の圖書の破損、紛失の場合は罰金が課されます。

DP 生は2014年8月の課題論文 (EE) 草稿作成のために、ノンフィクションやリサーチ資料も借りることができます。新12年生のリサーチを夏の間サポートするために、DPEE Moodle と LMC Moodle ページにアクセス可能です。接続できない場合は、こちらから直接IT部門にご連絡ください：
robert.whittaker@kist.ed.jp

来学年実施予定の図書室人気アクティビティー

- Yatta Card Challenge
- Hungry Readers Challenge
- Drop Everything And Read (次のレベルではライティングも含まれます)
- World Cultures Day (過去のInternational Mother Language Day)
- Sakura Medal Books, Sakura Arts and Sakura Book Trailers
- iCapture

2014-2015 はKIST図書室の人気アクティビティーが、いくつかの新しい、楽しい変化をともなって再開します！

Yatta! Card と **Hungry Readers challenge** は生徒達にIB学習者像を体現し、幅広く、そして「もっと読む！」ことを奨励します。

KISTでは引き続き Sakura Medal books, art contest と book trailers competitionsに参加します。2015年のお気に入りのSakura Medal books について、生徒達がどのような作品を創造するのか楽しみにしています。セカンダリーの生徒達は来年も*iCapture: digital photography challenge* で、写真を通して彼らの世界を捉え、共有する機会を持つことができます。

図書室でも色々な変化が起きています！いくつかの人気のあるイベントが継続する中、**DEAR** (Drop Everything and Read) や **World Cultures Day** (過去のInternational Mother Language Day) にいくつかのわくわくする変化を加えています。今年のDEAR プログラムでは、Drop Everything and Write の時間を新たに加えました。エレメンタリーでは自分たちで物語を書き、セカンダリーでは地球規模の問題について自身の視点で書くこととなります。

次のページに続く

前ページの続き

KISTのInternational Mother Language Day は今後、World Cultures Day として言語や習慣、伝統を共有することによって国際的な視野に敬意を表する一日として発展していきます。

図書室の新たな活動

- International Dot Day (エレメンタリー)
- 国際子供図書館訪問 (エレメンタリー)
- LMCのStudent Center for Excellence (セカンダリー)

図書室でのCommunity & Service

夏休みにコミュニティサービスを行いたいと考えている人は、6月18日から27日まで、図書室で本のカバーかけや、書架を整理するなど、技術的な面で司書の手伝いをすることができます。このMYP C&S の機会はG6からG10の生徒

にのみ与えられています。興味のある生徒はMs Hynes leslie.hynes@kist.ed.jp にメールで連絡してください。

退職されるスタッフへの感謝

LMC 司書のSatoko Yoshimotoさんが、2013-2014年度をもってKISTを去ることになりました。Miss Satokoは2009年からKIST図書館のメンバーとして勤務していました。彼女はKIST図書館の重要な一員で、その存在を失うのは残念ですが、新しいポジションでのご活躍をお祈りいたします。



The KIST Libraries Team

Grade 4: 来年に備え、リサーチスキルを磨く.....

私たち全てをエキシビションで驚愕させたG5に触発され、G4は集中的に言い換えスキルの習得に取り組んでいます。最終単元、Sharing the planetで彼ら自身の情報レポート作成が近づいてきています。果たしてG4はCentral idea (中心的な概念)について発見したことを全て自分の言葉で伝えられるでしょうか？彼らが「研究者」をひそかに観察しながら身につけた様々な言い換え方法から判断すると、彼らが質の高いレポートを順調に纏め上げていると思って良いでしょう。多くの生徒が今回のリサーチで取り上げる手法として「要点をまとめる」ことや「不要な情報を削除する」ことを挙げています。これらの手法を実践する中で、彼らは代替となる方法や、別の手段をも発見し始め、手法のリストに付け加えるべく、お互いにヒントを与えています。G4の皆さん、来年の大きな挑戦に立ち向かう準備はできていますよ。

G4の作業中の写真です。

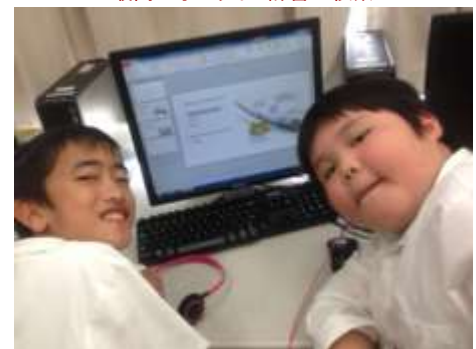
Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator



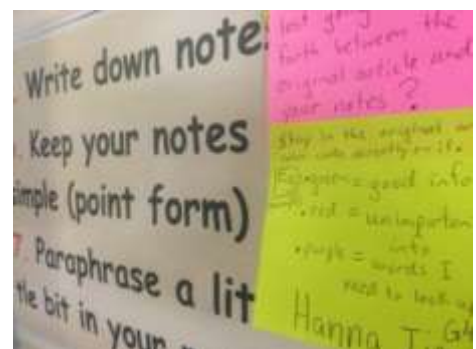
汚染に関する詳細な記事を言い換えるのに使う新しい手法を探しているところ



最高のオンライン辞書の検索



クラスメートへのアドバイス



あるチームの完成作品

Staff 10!

今月のStaff 10!では2013年にセカンダリースクールの理科分野コーディネーターとしてKISTに仲間入りをしたJohn Roseを紹介させていただきます。Mr Roseは2014-2015年度からDPコーディネーターの職に就きます。



スポーツ万能のMr Roseが理科の授業の合間に生徒達と校庭でクリケットを

● 出身地について面白いことを教えてください。

オーストラリアのDungogという田舎町の出身です。(アボリジニの言葉で木のない丘という意味)

● 世界で一番好きな場所はどこですか？

タイのライレイビーチ、とにかく美しい場所です。

● チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

是非英国の女王に会って、英連邦の国々と英国の歴史、ローマが去った後に英国がどのようにして成立したかについて質問してみたいです。

● 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

料理が上手ということが特別な技術かどうかわかりませんが、それ以外ではただの平凡なJoeです。

● ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

踊ることが好きです；)

● あなたにとって一番の宝物は？

たぶん、私にとって特別な記憶を含んでいる、2年前に亡くなった父のネクタイです。

● ご自分を言葉で表現すると？

楽しい、みんなを幸せにしようとする愛すべき人物、でもリアリスト。

● もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

私の人生で変えたいものは何もありません。

● 自分を高めるために今やっていることは？

うーん、少しばかり体重を落としたいけれど、日本食がおいしすぎる！

● ファンに一言お願いします。

戦うのではなく、愛せ。



オフィスアップデート

靴(外靴)の購入

新年度に合わせて靴を新しく購入する生徒も多いと思います。



ほとんどの生徒は正しい靴(黒色のみ)を履いていますので、現在黒色一色でない靴を履いている生徒も夏休み中にできる限り黒1色の物を探してみてください。

お友達と情報を交換したり、ネットで探してみたり、KISTユニフォームにふさわしい靴(外靴)を購入していただく事を望みます。

学費支払いについて



2014年度(2014-2015 school year) 学費の第1回目お支払期限は5月15日でした。もしお支払いがまだお済みでない場合は、早急にお支払いをお願い致します。

学費のお支払い期日は、毎年5月15日・9月15日・12月15日(休日の場合は翌平日)となっております。

2014サマープログラムにお申し込みの皆様へ



サマープログラムのコース料金は前払制となっています。オンラインでお申し込みいただきましても、本プログラムのお申し込み最終確定は、コース料金のご入金を確認されてからとなります。まだお支払いがお済みでない場合は、サマープログラム指定の銀行口座にお振込いただくか、スクールオフィスにてお支払いください。なお、インボイスは発行されません。インボイスが必要な方はオフィスまでご連絡をお願い致します。

新学期(2014年8月～)からのスクールランチオーダーの変更について



新学期(2014年8月～)からのスクールランチオーダーの曜日変更・キャンセルの申し込み受付は、6月11日までとなっています。

曜日変更・キャンセルをご希望の方は、必ずフォームを提出してください。申し込み締め切り後の受付はいたしませんのでご了承ください。

い。

フォームはウェブサイトにご覧いただけます。

<http://www.kist.ed.jp/files/pdf/enrolment/School%20lunch%20order%20form.pdf>



さくらメダルブックトレーラーコンテスト

快挙!!! 2014年 さくらメダルブックトレーラーコンテスト

AskaとIbuki(G8A)「心の森」が最優秀賞受賞(中学生A部門)!! 他にも入賞者多数!

5月1日。インターナショナルスクール日本語教師会主催2014年さくらメダルブックトレーラーコンテストの受賞者の発表が行われた。当校では中学生A部門においてG8AのAskaとIbukiの制作した小説『心の森』のブックトレーラーが最優秀賞に選ばれるなど全5作品が入賞し、該当した生徒たちには当協会から表彰状が授与された。

このコンテストはインターナショナルスクール日本語教師会が読書推進を目的として2012年よりおこなっているもので、中高生部門では「さくらメダルブック」としてリストにあがった小説・絵本を読んでその内容を2分以内のブックトレーラーに作成するというもの。評価される点は「表現の豊かさ」「デジタルテクノロジー等の使用形態」「その本が読みたくなるか」など。

参加した生徒たちは応募要項に記載されたルールを理解し、著作権に抵触しないように注意しながら独自の表現方法や技術で作品を制作した。親や教員は手伝ってはいけなかった。この作業を今年2月の日本語の授業で2週間程度集中して取り組んだ。このコンテストに参加したクラスはG10とG9のJapanese A(加茂クラス)、G10、G8のJapanese B(フェーズ5)(金沢クラス)、G8のJapanese A(松居クラス)、G9、G8のJapanese B(フェーズ1、3)(山下クラス)。全54作品を応募した。

応募作品は受賞すればYouTubeで受賞作として閲覧されるため、生徒たちはYouTubeのアカウントを取得する。参加した生徒の作品の中には著作権の問題が解決できず応募不可となったものもあった。

このようにまず生徒たちは、締め切りに間に合うように作品を提出するためにいくつかの関門を克服しなければいけなかった。G8のJapanese Aではこれら一連の作業をユニット学習(メディア概論)の一環として取り入れ、「メディアを発信する側として自分たちの伝えたい情報が公的に受け入れられる」意義を体験した。

Takashi Matsui
MYP Japanese Teacher



このコンテストで入賞した部門と生徒名、作品は以下の通り。

中学A部門

最優秀賞

Aska と Ibuki (G8A)
「心の森」



優秀賞

Erika と Ellen (G8B)
「電車で行こう」



準優秀賞

Yurika と Amina (G8B)
「私を知らないで」



Seina (G8A)

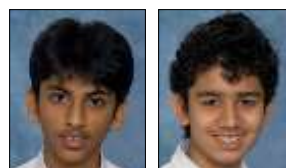
「パスワード暗号バトル」



高校B部門

準優秀賞

Raghav (G10A) と Raj (G10B)
「シールのかくれんぼ」



受賞作品は「Japanese Book Trailer Contest-Google Sites 2014年度受賞作品」で観る事ができる。

(日本語) <https://sites.google.com/site/jtabktrailercontest/winners/ms-a-2014-msawinners14>

(英語) <https://sites.google.com/site/booktrailercontestenglish/home/ms-a-2014-ms-a-awards-2014e>

スポーツ&運動競技ニュース

今年もKISTの選手たちとチームにとって上首尾で終わった一年でした。生徒達はKISTの代表選手として東京と周辺地域での様々な競技会に参加しました。新しいKISTユニフォームで正々堂々と競技を行う生徒達は、勝者に見えるだけでなく、勝者としての自信と誇りを持って競技を行っていました。

エレメンタリーのスポーツと運動競技

今年の冬・春シーズンに、エレメンタリーの競技者たちは3つの大きなイベントに参加しました。

3月18日(火曜)にはBST主催の Aquathlon が行われました。Aquathlon は水泳と陸上を合わせた競技です。KISTの生徒達は競泳経験の少なさを補って余りある成果を出しました。参加した他の学校、BSTと西町インターナショナルスクールには体育の授業で水泳を提供しています。私たちはプールでの経験の少なさをトラック上で補いました。エレメンタリーの代表選手たちは素晴らしい走力をまたも発揮してくれました。

KISTの選手たちは素晴らしい努力を見せ、G3男子の部で3つのメダルを獲得しました。金メダルを獲得した **Keanu** (G3A) と銀メダルを獲得した **Soma** (G3A)、本当におめでとう。彼らはG3全体で最も早く泳ぎ、走りしました。本当に素晴らしいイベントでした！！



3月21日にはG3からG5の中から選抜されたミニバスケットボールの選手たちがISTAA Championship Tournament 2014に参加するため、BSTに遠征しました。BSTを始め、the Montessori School of Tokyo、New International School、西町 International Schoolと、多くの学校が参加しました。KISTは一部の「青」チームと、2部の「白」チームに参加しました。両チームとも、総当たり戦のラウンドロビン・トーナメントで善戦し、決勝に進みました。「白」チームは決勝で善戦したものの、西町の強豪チームに及ばず、2位となりました。また、「青」チームはすばらしい健闘をし、予選ステージで1位となりました。決勝では Montessori School of Tokyoの非常に優れたチームと対戦しました。我が校の男子選手たちはこの日最高の試合をし、敵チームをやすやすと下し、2014年度 ISTAA ミニバスケットボールの優勝者となりました。KIST ballersの皆、おめでとう！

3月13日火曜日のBSTリレー大会は、BST、早稲田インターナショナル、そしてKISTの3校のG3からG5の選抜選手によって行われたフレンドリーなイベントでした。各校・各学年のトップランナーが50m、2本のリレー、4 x 50 m と 4 x 200 m で互いに競い合いました。体育の「ウォームアップ」(スプリント・トレーニング)の成果が50 m走で表れ、KISTの選手たちがこの競技を独占しました。また、チームリレーでは練習の少なさにもかかわらず、非常に力強い走りを見せました。

結果

4 x 200 m relay

G3 Girls: KIST 1st (2.44)

G3 Boys: KIST 2nd (2.35)



Congratulations Mini-Basketballers!

G4 Girls: KIST 2nd (2.34)

G4 Boys: KIST 2nd (2.25)

G5 Girls: KIST 2nd (2.30)

G5 Boys: KIST 2nd (2.21)

4 x 50 m relay

G3 Girls: KIST 1st (37.45)

G4 Girls: KIST 1st (36.34)

G5 Girls: KIST 1st (34.18)

50 m individual sprint

G3 Girls

1st: Miu (8.47)

2nd: Sola (8.72)

G4 Girls

1st: Hanna (7.78)

3rd: Rina (8.04)

G5 Girls

2nd: Maki (8.39)

4th: Saki (8.51)

G3 Boys

1st: Sho (7.93)

G4 Boys

1st: Ryuta (7.81)

2nd: Seung Bin (7.88)

3rd: Kishore (7.92)

4th: Kaiser (8.21)

G5 Boys

1st: Arata (7.52)



エレメンタリーの今年最後のイベントはISTAA エレメンタリーサッカー大会でした。会場となったKISTでは以下の学校を含む5校で試合を行いました: British School、Columbia、Montessori Tokyo、Nishimachi、New International。コーチのMr Sullivan に率いられたKIST サッカー部は、午後に白熱した5試合を戦いました。5試合を終えても、非常に高い技術を持ったBSTチームを負かせる学校は現れず、KISTチームは最終的に4位となりました。選手の皆さん、来年はもっといい年にしましょう！



次のページに続く

前ページの続き

ISTAA と高校のスポーツ活動 バスケットボール



3月始め、ISTAA 男女バスケのシーズンは終わりを迎えました。今年度は新たなコーチ陣の元、全てのチームが驚異的なシーズンを送りました。バスケットボールは過去3年間KISTの主力競技であり続け、今年もチームは期待を裏切りませんでした。男女全てのU14/U18チームはディフェンディングチャンピオンとしてISAAリーグを迎えました。2年目とU18の男子チームの3年目では全てのチームがISTAAのバスケットボールチャンピオンになりました。ミラーコーチとグラントコーチが費やしてくださった時間と労力に感謝します。GO COMETS!!

U14 Girls ISTAA Champions 2013, 2014
U18 Girls ISTAA Champions 2013, 2014
U14 Boys ISTAA Champions 2013, 2014
U18 Boys ISTAA Champions 2012, 2013, 2014



野球



今シーズンKISTの野球チームはSt. Mary's International Schoolと4つの親善試合を行いました。St. Mary's は野球に関して伝統のある強豪校です。我が校のチームは常に敗者(第一試合12-5, 第二試合13-11, 第三試合12-6, 第四試合19-2)であり、負傷者に苦しみましたが、チームの男子は試合毎に進歩を見せました。彼らはこの経験を来年の試合にきっと活かしてくれることでしょう。良いシーズンでした！コーチをしてくださったAki先生、Matsui先生、マネージャーのRiko (G8B) と Eimi (G9A)にも感謝します。



フットサル



ISTAA のフットサルシーズンが始まり、U18チームはISTAAディフェンディングチャンピオンとして戻ってきました。開幕戦ではU18の男女が印象的な勝ち試合を見せました; Canadian International

(男子 12-0 と 9-1; 女子 11-0 と 8-0), Columbia International (男子 10-4), British School と International Secondary School (Girls 5-2). KIST は今年も非常に強いチームを擁しています。

U18チームは6月1日にBSTでのISTAA最終トーナメントに参加しました。両チームともハイ・シードで試合に入り、男子チームは第1ラウンドでCanadian Schoolとの熱戦の結果惜敗しました。その後も男子チームは試合を続け、4位に終わりました。女子チームはトップシードで試合に参加しました。第1試合はKAISを6-0で破り、快勝。最終戦ではBSTのライバルチームと対戦しました。シーズン中の通常試合では5-2で勝利していたKISTですが、今回、50分の熱戦の結果1-0でBSTに勝ちを譲り、最終的に2位に終わりました。これは女子チームにとってシーズン初めての負け試合となりました。女子チームの皆さん、すばらしいシーズン、おめでとうございます！！

コーチをして下さったMr Jude Ross (U18 男子), Ms



Lucila Zornosa と Mr Ilich Granados (U18 女子) 本当にありがとうございました。



U14のKenyonコーチからのメッセージ

今年のU14フットサルチームにとって今シーズンは発展の年でした。シーズンの始めにはばらばらにプレーしていた新人選手たちが練習で獲得した戦術やスキルを用いて、今や互いのためにプレーする立派なチームとしてまとまったことを嬉しく思います。選手の多くがフィードバックや批判を前向きにとらえ、より成熟したフットサル選手に成長しました。彼らの努力は最後の練習試合でISSを相手に8-0での勝利をもたらしました。

選手たちとチームが成長を続け、6月8日のBSTでのISTAAのトーナメントで全力を尽くせる事を祈っています。最後に、試合を観戦して下さった保護者の皆さん、特にホーム・アウェイでの試合の両方でチームを支えてくださったMrs Sivakumarに感謝申し上げます。

Mr Kenyon



次のページに続く

前ページの続き

2014年ISTAA 最優秀選手賞

この賞は運動競技ディレクター(Mr Leroy)が2013-2014競技年度のISTAA各競技レベルで最も成果を挙げた優秀なKIST選手を選出し表彰するものです。KISTには複数のスポーツ・クラブで学校を代表する選手が多く在籍しています。この賞は彼らの貢献を称えるための物です



U14 Most Valuable Female Athlete

Emiri (G7A):
U14 Volleyball; U14 Basketball ISTAA Champions; U18 Basketball ISTAA Champions



U14 Most Valuable Male Athlete

Ke Yi (G8B):
U14 Basketball ISTAA Champions; U18 Volleyball and Baseball



U18 Most Valuable Female Athlete

Keerti (G11B):
U18 Volleyball ISTAA Champions; U18 Basketball ISTAA Champions; U18 Futsal



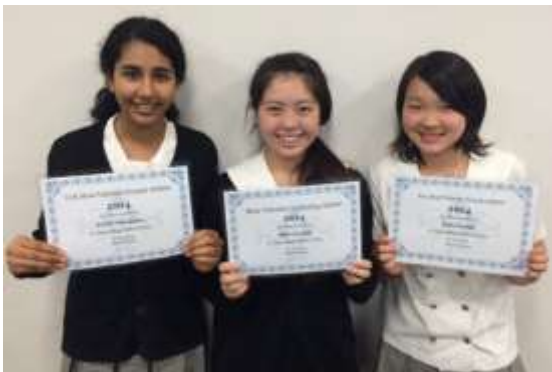
U18 Most Valuable Male Athlete

Motoi (G10A)
Co-captain U18 Volleyball; U18 Futsal and Baseball



Most Valuable Graduating Athlete

Miku (G12B)
Captain 3 seasons and 3 time ISTAA Volleyball Champions 2012, 2013, 2014; Captain 3 seasons and back to back ISTAA Basketball Champions 2013, 2014



賞状を手にしたKeerti, Miku, Emiri

KIST Cometsにとって本当にすばらしい1年でした！この調子を維持して2014-2015のシーズンに備えましょう！！安全に注意して、夏休みを楽しんでください！

Jay Leroy

PYP/MYP PE Teacher / Athletics Director

さくらメダル読書感想文コンテスト

Homareさん 低学年の部最優秀賞！！他5名が受賞

今年も「第5回さくらメダル読書感想文コンテスト」が開催されました。これは、様々な言語環境にあるインターナショナルスクールの生徒の読書意欲を高め、互いに切磋琢磨することで日本語能力のさらなる向上を目指すことを目標としています。

低学年の部・高学年の部とも各スクール最大5名までが応募できます。今年は、100名近い応募があったそうです。KISTからも9名が応募しました。

この機会を利用し授業で感想文の書き方を学習しました。

- 本を読んで一番感動したのはどの部分だろう。
- どうして感動したのだろう。
- そこから自分は何を考えたのだろう。
- 感想文の構成はどのようにしたらよく伝わるのだろう。

そして、保護者の皆さんにはお子さん一人ひとりが興味を持ったさくらメダルの課題図書を用意していただきました。生徒達は学習したことを元に全員が感想文を書くことに挑戦しました保護者の皆様のサポートにも感謝いたします。

Yoshiko Torikai
Japanese Teacher



今回の受賞者

低学年の部

最優秀賞

Homare (G2A) 「しげちゃん」

優秀賞

Remi (G2A) 「しげちゃん」

Shin (G3B) 「じゃんけんのすきな女の子」

努力賞

Sara (G3A) 「魔女のシュークリーム」

高学年の部

優秀賞

Rei (G4A) 「ココロ屋」

努力賞

Ryuta (G4A) 「ココロ屋」

カレッジガイドスニュース

2014年度卒業生大学合格リスト

KISTでは、今年も素晴らしい大学合格実績の年となりました。2014年5月31日現在の2014年度卒業生が合格した大学のリストは右のとおりです。まだ、結果を待っている生徒や、卒業後に受験する生徒もいますので、これは最終リストではありません。今年もまた、KAIST(韓国科学技術院)、香港大学、ボストンカレッジ、ニューヨーク大学、ジョージワシントン大学、フロリダ工科大学、UCサンタクルーズ、UBC、マギール大学、トロント大学、ロンドンスクールオブエコノミクス、キングスカレッジ、エジンバラ大学、国際教養大学、早稲田大学など世界中の難関校に合格しました。また、特筆すべきは、多くの生徒が授業料その他の費用をカバーする奨学金を一部あるいは全額支給されているということです。おめでとうございます。

卒業生のますますのご活躍をお祈りしています。

9年生以下の皆さん！2016年にSATが大きく変わります。

SATの運営会社College Board が発表した新しいSAT (2016年から実施)の主な変更点:

1. エッセーセクションはオプションになり、合計2,400点から1,600点に戻ります。
2. テストのために、減多に見ることの無いような特殊な単語を覚える必要がなくなります。大学や仕事で役に立つような言葉が試験に出ます。
3. リーディングセクションでは、図表やグラフなどを含んだサイエンス文書などさまざまなタイプのマテリアルの内容の読解や分析能力を測ります。
4. 間違えた解答は減点されません。

これらの変更は、現行のSATは生徒が学校で勉強する内容にマッチしておらず、学校以外の勉強に相当な時間をさく必要があり、高い点数をとるためには、チューターや特別な準備プログラムなどに参加しなければならず、その費用として各家庭は年間最大で2万ドルも支払っていると以前から批判されてきたことに応えたものです。SATを運営しているCollege Boardの現社長が、この問題を解決するためにテストの改正を決定したといっています。

詳しくは、College Boardの下記リンクをご覧ください。

<https://www.collegeboard.org/delivering-opportunity/sat/redesign>

Mrs Keiko Okude
College Guidance Counselor
keiko.okude@kist.ed.jp

KIST College Acceptances and Offers Class of 2014

*Scholarship offered (number of students accepted)
As of May 31, 2014

UK

University of Edinburgh (3)
Queen Mary University of London (2)
Ashton University
Durham University
King's College London (2)
London School of Economics and Political Science
University of Birmingham
University College London (3)
University of Exeter
University of Leeds
University of Liverpool
University of Nottingham
University of Surrey
University of West of England, Bristol

USA

Birmingham Southern College*
Boston College*
Boston University*
Florida Institute of Technology*
George Washington University* (2)
Lynn University
Midwestern State University
New York University*
Northeastern University* (4)
Pacific Lutheran University* (3)
Pennsylvania State University
San Jose State University
Soka University of America*
Syracuse University
UC Santa Cruz
University of Iowa
University of Oregon* (3)
University of Wisconsin, Madison

CANADA

University of British Columbia* (7)
McGill University* (2)
Mount Allison University*
Simon Fraser University
Trent University*
University of Northern British Columbia
University of Toronto*
University of Victoria*
York University

JAPAN

Akita International University
International Christian University (2)
Ritsumeikan Asia Pacific University
Sophia University, Faculty of Liberal Arts (6)
Waseda University, Political Science and Economics*
Waseda University, Advanced Science and Engineering (2)

KOREA

Korea Advanced Institute of Science and Technology

HONG KONG

University of Hong Kong

卒業生レポート...

Kei KomakiはKISTの2012年度卒業生で、現在は東京の国際基督教大学の2年生です。

早いもので、私がKISTを卒業し、国際基督教大学(ICU)に入学してから、もうすぐ2年経ちます。ICUは東京都に位置する日本の私立大学で、私は留学生やインター生を対象とした9月入学審査を経て同大学に入学しました。この記事では、私のICUでの学びと体験を通して、KISTで学ぶ皆さんのほとんどが経験するIBがどれだけ実用的かつレベルの高い教育であるかを感じて頂くことが出来れば幸いに思います。

私は現在、ICUで物理学を学びながら教職課程を進めていく傍ら、大学の演劇部で部長を務めています。最近では大ヒットミュージカル『レ・ミゼラブル』で主人公ジャン・バルジャンを演じ、4回の公演で延べ約800人のお客さんに観て頂く事が出来ました。このように私はすっかり大学での人生を楽しんでいます。同時に勉強や課題にも力を入れています。ICUは米国型のリベラルアーツ教育を採用しており、幅広い知識を深く学ぶことを教育目標としています。そのことから、私は物理学を専攻していながら心理学や音楽史なども少しずつ学習しています。ICUの魅力のひとつとして挙げられるのは、日本の大学でありながら英語での授業が数多く提供

されているということです。また、日本語の授業であっても、教科書が英語であったり課題やテストなどを英語で提出することが出来たりします。ICUで物理学を専攻する事における最大のメリットは、少人数制であるがために本来ならば大学院でしか使用が許可されないような実験器具を学部生の時から使えるということです。これだけ教育に力を入れている大学であるために、周りには真面目で意識の高い学生が多いということも、自分にとっては最高の条件となりました。

さて、日本ではレベルの高い教育を提供していると言われるICUですが、それだけに日本の高校からの一般受験では超難関校として知られています。それだけに、入学前はこの大学において自分の能力がどこまで通用するかという不安がありました。しかしながら、入学してみるとIB経験者としてのアドバンテージが色んな部分で実感出来ました。例えば、実験レポートを書く場面であったり、授業内での発表を行った時であったり、文学作品の分析を行う時であったり、日本の高校では経験出来ないようなことを先駆けてやってきたことで日本の教育とIB教育における差異を感じま



した。勉強だけではなく、部活の運営などといったリーダーシップやコミュニケーションスキルが必要とされる場面においても、同じくIB教育のメリットを感じることが出来ます。つい最近、教職課程の授業において教授からIB教育についてのレクチャーを依頼され、引き受けたところ、多くの学生から「自分もIB教育を受けたかった」という声を聞きました。

これらの体験を通して、KISTの後輩に伝えたいことは、皆さんの受けているIBという教育は将来必ず生きるための力となるということです。せっかくこのような素晴らしい教育を受けるチャンスを得ることが出来たのであれば、そのチャンスを活かして一生懸命取り組んで欲しいのです。そうすればきっと、それがあなたの生きていく上での財産となるはずですよ。

Kei Komaki
KIST Alumnus
"Class of 2012"



研究に次ぐ研究の結果、IBプログラムに参加した生徒達は、大学レベルの授業に対して学力的な準備ができており、且つ、他の生徒に比べ、卒業する(それも早期に卒業する)可能性が高いと証明されています。今年では世界中で百万人以上の生徒達がDPプログラムに参加しました。IBプログラムは急速に進化しつつある国際社会において、生活し、学び、働くために必要な確固たる学力と、個人的、精神的、社会的スキルを育みます。

International Baccalaureate Organization, 2014

<http://www.ibo.org/recognition/eventsandinitiatives/hei/documents/HED-short-flyer-14032014-FINAL-web.pdf>



ITニュース

なぜKISTがWindowsのみを選択することになったか

多くの組織ではアップル・ウィンドウズ両環境で運営されているということは理解しております、また、そのような環境においてユーザーの多くは、ウィンドウズよりもアップルのほうが色々なことができるとおっしゃるかたも多いです。しかしながら、KISTでは両方のプラットフォームへのサポートを提供することは不可能と言わざるを得ません。私達が2014-2015年度からウィンドウズ版の機器(キーボードにwindowsのロゴのあるもの)からのみネットワークへのアクセスを許可するという決断下した理由をよりよくご理解いただけるよう、双方の環境を提供することによる技術的な問題点の事例をご紹介します。

今年初めの理科の授業で、教員が授業の概念をつかむのに必須のアニメーション付きのパワーポイントを準備しました。ウィンドウズPCとMAC双方でOfficeが提供されているにもかかわらず、これは全く同じ仕様のものではなく、メニュー、ディスプレイ、キーボード上のショートカットなどが同一のものではありません。パワーポイントは基本的にウィンドウズとMACのOSで運用できますが、ActiveX搭載のパワーポイントは運用できません。この為、生徒達は自身のMAC OSでは見ることでできない画像を視聴するため、オフィスに学校PCを借りにきました。彼らがPCを借りた為、本来G6-G9の生徒の為に図書室使用の機器が使用不可になってしまったのです。これは彼らが、学校の推奨するウィンドウズ版を使用していれば起きなかったことでした。これまでは学校にMAC OSを持ち込み・使用することを許可していたため、彼らの機器にウィンドウズをインストールするように指導することはできませんでした。

ウィンドウズ 8.1 はMAC機器上でも運用可能ですが、次に生じる問題点は、ウィンドウズをMAC OS環境で動作させるのに必要な技術的な知識が生徒には困難なものだということです。例えば、ある生徒はMAC OS上でウィンドウズ7をインストールしたの

ですが、インストールの方法上、ディスクスペースがいっぱいになってしまい、ウィンドウズが起動できなくなってしまったばかりか、ウィンドウズをロードすることすらできなくなってしまいました。また、この生徒はコンピュータに強くなかったため、ウィンドウズインストールの過程ですべてのデータも失ってしまいました。このように、ウィンドウズが起動・作動を停止した場合、Mac OSの管理が問題解決の重要な要素となるのですが、現在の体制ではMacの技術サポートを提供することはできません。このため、KISTは皆さんにウィンドウズ機器を使用してくださいをお願いしている理由です。そうでないと、この生徒のようにサポートを十分に提供できないことによって、不幸な状況に陥る生徒がでてしまいます。

ハードウェアの統一をお願いしている根拠はG11の生徒達の数学用にT184 グラフィックディスプレイの計算機の購入をお願いしているのと同じものです。グラフィック計算機には様々な機種があり、T184と同じ機能を持っています。しかし、機種によって押すべきボタン、スクリーン上のディスプレイメニュー等が異なります。購入する計算機の機種を統一しないことは、教師が異なる機種の計算機の使用法を個々に指導しなければならないという非効率な環境を作ります。ハードウェアの統一により、生徒の技術使用をよりサポートでき、さらに多くの時間を学習指導に当てられるという効果を生みます。

最近のG8の数学の授業でも似たようなことがありました。生徒がMac OS上にバーチャルマシンとしてウィンドウズをインストールしており、授業ではMac/Windows双方で使用できるGraphmaticaを使っていました。しかし、授業でMr Jonesが用いていた指示はMac対応ではなかったため(MacではCTRL+Aは使用できない)、指示された内容をMac上で行うのにはどうしたらいいのかという質問が生じました。あいにくMr JonesはMacについて詳しくなかった為、この



質問に答えることができず、生徒は自身でグラフの入れ方を(幸いなことに成功しましたが)見つけ出さなければなりません。この事例では問題は簡単に解決できましたが、MacとWindowsは似たようであり、異なる運用をしなければならないということが示されました。

上記は同一のハードを使用しないことによって授業の流れを阻害することになった一例です。これは本来あってはならないことであり、また、クラス全体の学習を妨げる可能性も秘めていると考えます。このようなことは過去2年にわたり、G10-G12で起きています。Windows Word 2010で作成され、フォーマット保存のため、ロックされていた文書が Mac 2008のオフィスで開くことができなかったため、授業そのものがキャンセルされた例もあります。MacのOfficeとOffice 2010は互換性があるものの完璧に同じものではなく、その特徴にかなりの違いがあります。許可されたソフトを使用するだけではこの問題は解決しません; 学校が使用しているハードとソフトに合わせる事が必要なのです。

私達が統一プラットフォーム環境を作る目的は、技術的な要因による授業の遅滞や妨害を最小限にし、生徒の学習サポートに最大限の時間を割くことを可能にする為です。私達は、生徒が本来不要な技術的な問題解決に時間を割くより、新しい概念の理解や、学んだことを応用する事に時間を使ってほしいと考えます。上記の事例が生徒のコンピュータに関する私達の決定についてご理解頂く一助となることを望んでおります。

Rob Whittaker
IT Software/Hardware Coordinator
KIST IT Office



Family Day 2014

Saturday, May 30